

大熊町第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略における 基本目標・施策・KPI一覧

<指標の評価について>

- A : 非常に効果的であった(実績が目標値の100%以上)
- B : 相当程度効果があった(実績が目標値の70~100%未満)
- C : 効果があった(実績が目標値の0~70%未満)
- D : 効果がなかった(実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなどの場合)
- : 数値目標を定めていない(定量的な目標ではない)、途中で終了した、
新型コロナウイルス感染症対策等やむを得ない理由で中止した、等

基本目標 1 : 町民を取り巻く多様な環境に合わせた生活の支援

(ア) 放射線の継続的モニタリング、放射線、廃炉・汚染水対策の状況に関する情報発信

町内の放射線量のモニタリングを継続し、その結果や、放射線に関する基礎知識、町内放射線環境、廃炉汚染水対策に関する情報発信を図る。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	町内の放射線量のモニタリング 及び結果の発信 (回/年)	P. 25	2回	2	2	1	1	1	50.0%	C
2	放射線基礎知識および町内放射線環境の周知広報 誌 (HP) 公表 (回/年)		12回	12	12	12	12	12	100.0%	A
3	廃炉・汚染水対策に関する情報発信 広報誌 (HP) (回/年)		12回	12	12	12	12	12	100.0%	A

<評価・今後の見通し>

- 町内の放射線量モニタリングについては、令和4年度以降、職員による簡易測定を廃止し、実施は年1回とした。
- 放射線、廃炉等に関する情報発信は計画通り実施した。

<有識者意見>

- 職員による測定は、外部からデータ提供を受けるだけでなく、職員自身が測定方法への理解や知識を持つことが重要だという主旨で開始したものである。こうした経緯も踏まえてほしい。

(イ) 町内防災拠点の整備及び防災体制の強化

町土復興の進展に合わせて町内に防災拠点を整備する。また、緊急時には町民や作業員の安全確保を図る。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	職員研修の実施 (回/年)	P. 25	1回	1	1	1	1	1	100.0%	A
2	防災訓練の実施 (回/年)		1回	1	1	1	1	1	100.0%	A

<p><評価・今後の見通し> ○計画通り実施した。今後も継続していく。</p>	<p><有識者意見> ○職員研修や防災訓練の実施回数は達成しているとのことだが、内容のブラッシュアップも図るべきではないか。原子力災害を経験した自治体の職員として、他の自治体の災害にも協力できるような能力を身に付けてもらいたい。</p>
---	--

(ウ) 総合健診の実施

避難生活を続ける町民の健康状態を把握し、生活習慣病の予防や疾病の早期発見、早期治療につなげていくために、総合健診を実施する。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	総合健診の受診率目標 (%)	P. 25	50%	41.9%	45.2%	42.1%	43.8%	43.1%	86.2%	B

<p><評価・今後の見通し> ○総合健診受診率向上のため県内4カ所にて実施したが目標達成はできなかった。今後は実施会場の場所並びに期間を見直し受信希望者の要望に応えるよう改善する。 ○受診促進のため、公式HPや町広報、チラシの配布、ポスター掲示等啓発に努めた。また、予約しやすいようコールセンターを設置しWEB予約管理システムを導入した。</p>	<p><有識者意見> ○大熊町の健康診断は他と比較しても検査項目など内容が充実している。せっかくだから多くの人に受診していただけるように取り組んでほしい。単純に面倒だから行かないという人が多い可能性がある。健康診断へ行く動機付けに力を入れることが必要ではないか。</p>
---	---

(エ) 高齢福祉の増進

長引く避難生活により、支援を必要とする介護予備軍の増加が懸念されている。また、双葉地方の他の自治体と共通の課題を抱えている場合が多い。福祉関係の人材等が不足する中で、他市町村と連携するメリットを活かし、高齢者等福祉を促進する。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	介護予防（自主グループ活動等） （回/年）	P. 25	100回	135	140	258	394	384	100.0%	A
2	介護認定者の認定率 %		19.3%	22.4%	21.6%	20.5%	21.3%	20.7%	90.0%	B

<p><評価・今後の見通し> ○概ね計画通り実施した。コロナ解除に伴い自主グループによる活動が再開され、今後も活発な活動が期待できる。 ○高齢者の増加に伴い、介護認定者の認定率は今後も高くなる見込みとなっている。</p>	<p><有識者意見></p>
--	----------------------

(オ) 町内でのコミュニティイベントの開催

帰町した町民同士、町民と企業従事者等の住民、帰町した町民と避難先から大川原地区を訪れる避難町民との交流を促す。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	町民との交流イベント（夏祭り、餅つき等）の開 催 回/年	P. 25	2回	1	4	4	4	4	100.0%	A

<p><評価・今後の見通し> ○計画を上回る実施となった。イベントの定着により参加者も増加傾向にある。今後の帰還・移住の状況により、関係団体とも共有、協議を図り、引き続きコミュニティづくりに関するイベントを実施し、コミュニティ形成を推進していく。</p>	<p><有識者意見></p>
--	----------------------

(カ) 町内視察希望者の受け入れ体制の整備

町の現状や復興・再生の取り組み状況を知ってもらうため、視察者等を積極的に受け入れる。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	視察等の受け入れ数 (人/年)	P. 26	900人	中止	102人	546人	636人	907※	100.0%	A

※ 視察対応 (総務課) 318人、見学ツアー等 (生活支援課) 589人 計907人 (学び舎ゆめの森5,058人 (R5. 8~R7.

<p><評価・今後の見通し> ○コロナ過では一時的に視察受け入れを中断したが、概ね計画通り実施した。 ○国や県、他自治体等の視察の他、一般向けに大熊町見学ツアー (中間貯蔵施設・福 島第一原子力発電所、町内等) を実施している。今後も視察受け入れを継続し、参加 実績や町内の状況によりコースの見直しを検討する。</p>	<p><有識者意見></p>
---	----------------------

(キ) 生きがいを創出する生涯学習の推進

スポーツ、民俗芸能などの諸活動は心のケア、いきがいつくり、憩いなどにもなり、心の復興にも効果的であることから、学校等を巻き込み、生涯学習の推進を図る。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	フレンドリー教室 (人/回)	P. 26	10人	中止	中止	中止	中止	中止	0.0%	-
2	おおくまワンダーランド (人/回)	P. 26	40人	40人	39人	38人	事業終了	—	95.0%	-
3	ミニ文化展 (来場者数 人)	P. 26	200人	中止	中止	430人	304人	379名	100.0%	A
4	町民パークゴルフ (参加者数 人)	P. 26	60人	中止	中止	79人	63人	66名	100.0%	A

<p><評価・今後の見通し> ○フレンドリー教室は主に避難先の子供を対象としたものであり、避難先での定着から参加者の減少や固定化が課題だったため、学び舎ゆめの森の状況を踏まえ、町内で事業を再度組み立てるために再検討を実施。令和7年度は町内で子どもの体験活動事業を実施する予定。※令和2年～4年はコロナ禍により中止。 ○おおくまワンダーランドはいわき子供育成会の補助事業であり、主に避難先での親子の交流事業として実施していたが、学校が町に帰還したことを機に、団体が事業を終了した。 ○ミニ文化祭、町民パークゴルフは計画を上回る実施となった。</p>	<p><有識者意見></p>
--	----------------------

(ク) 子どもと保護者等の心のケアの推進

子どもや保護者の心のケアプログラムの充実を図るため、県から派遣されているカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを有効活用するとともに、常勤のカウンセラーの設置を推進する。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略該当頁	KPIの達成状況						直近年度目標の達成率	計画期間全体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	スクールカウンセラーの派遣 (人/年)	P. 26	1人	2	2	1	1	1	100.0%	A
2	スクールソーシャルワーカーの派遣 (人/年)	P. 26	1人	2	2	2	1	1	100.0%	A

<p><評価・今後の見通し> ○スクールカウンセラーは計画通り学び舎ゆめの森に配置した。 ○スクールソーシャルワーカーについても、令和5年度から町内で学校が再開したことに伴い町内に1名配置した。今後は学校での勤務も増やし、よりよい支援体制を構築する。</p>	<p><有識者意見></p>
---	----------------------

(ケ) 地域課題をビジネスとして取り組む団体への成果運動型の支援の検討

町内の教育施設を活用したインキュベーション施設を設置し、生産人口を町に惹きつけることのできる「魅力的な企業」の誘致や育成を行う。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	インキュベーション施設内への企業誘致	P. 26	3社	-	-	74社	91社	135社	4500.0%	A

<評価・今後の見通し>
 ○誘致企業数に関しては目標を大きく上回った。今後は企業数のみならず、町内での活動内容も重視していく。

<有識者意見>

(コ) 将来的な移住者の確保を目指した週末ワーケーション（週末移住）

大熊町で週末を過ごしてもらうことにより、大熊の良さを感じ取ってもらい、将来的な移住者の確保につなげる。また、単に週末を町内で過ごすだけでなく、農業体験やイチゴ栽培施設での就業体験などをメニューとしてそろえ、大熊町での生活を体験し、具体的な生活イメージを持ってもらうことを目的とする。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	週末移住者 名/月2回	P. 26	10名	0	-	-	-	-	-	-
2	宿泊場所（拠点内宿泊施設、再生古民家等） 軒	P. 26	5軒	0	-	-	-	-	-	-

<評価・今後の見通し>
 ○実施計画等について再検討を行ったが、対象がおらず、事業の見直しを実施した。

<有識者意見>

(サ) 将来的な移住者の獲得を目指した施策の実施

大熊の良さを感じ取ってもらい、将来的な移住者の確保につなげるため、各種交流等事業の展開や、町内での生活を体験し具体的な生活イメージを持ってもらう事業等を実施する。

No.	重要業績評価指標（KPI）	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	交流・関係人口拡大等促進事業 回/年	P.27	3	-	2	3	3	4	100.0%	A
2	お試し居住等体験事業 回/年	P.27	2	-	0	1	1	1	50.0%	C

<p><評価・今後の見通し> ○交流・関係人口拡大等促進事業については、移住定住支援センターにおける移住関連施策との連動により、参加者は増加傾向にある。今後も実績等を見ながらイベント内容を検討し、継続実施する。 ○お試し居住等体験事業については現在の取組を継続しつつ、今後事業内容を検討し、移住者増加を目指していく。</p>	<p><有識者意見></p>
--	----------------------

基本目標 2：帰町開始に伴う行政拠点の再編

(ア) 大熊町内の復興状況等に関する情報提供

町土復興の進展に関する情報について分かりやすくお知らせするため、広報活動を実施する。

No.	重要業績評価指標（KPI）	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	町HP「大熊町復興通信」での情報提供（回/年）	P. 32	6回	7	11	21	31	13	100.0%	A

<評価・今後の見通し>
○復興に係る最新情報について、計画以上にホームページ等に掲載した。

<有識者意見>
○情報発信は効果分析をしっかりとの方がよい。HPなどもページ毎のアクセス数の分析を検討してほしい。

(イ) 町民との対話に配慮した専門職員の配置

介護支援専門員や保健師などの専門職員による業務は、町民との直接的な対話が不可欠なため、帰町の状況に応じた人員配置を行う

No.	重要業績評価指標（KPI）	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	各出張所の専門職員の配置数	P. 32	郡山 4人	5	5	5	6	3	75.0%	B
			いわき 8人	6	5	7	2	1	12.5%	-
			会津 2人	2	2	2	2	2	100.0%	A

<評価・今後の見通し>
○令和5年度に「浜通り一本化」とするため、いわき出張所の保健師を本庁勤務へ変更した。今後も、日々変化する復興状況に対応すべく、必要に応じた職員を配置する他、専門職の雇用、関係機関へ派遣要請をする。

<有識者意見>

基本目標 3：複数のコンパクトな拠点が融合した町土復興

(ア) 基礎的な生活基盤の確保

大川原地区復興拠点での災害公営住宅や再生賃貸住宅の整備、医療・福祉施設の計画検討を引き続き推進するとともに、幼少中一貫校の開校検討を進める。また、日常生活に必要な買物環境や飲食機能等を確保する。
大野駅周辺では、特定復興再生拠点の避難指示解除目標である令和4(2022)年春頃を念頭に置きながら、住む場所や医療・福祉機能といった居住環境及び充実した生活を行うための商業店舗や飲食店等の立地等、段階的に整備していく。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	災害公営住宅等の整備 (戸数)	P. 43	132戸	132	132	140	190	189	100.0%	A
2	医療環境の整備 (軒数)		1軒	1	1	1	1	1	100.0%	A
3	商業施設の整備 (店舗数)		9店舗	9	9	9	9	16	177.8%	A

※(小児科オンライン診療アプリ「デジスマ診療券」導入)

<p><評価・今後の見通し> ○災害公営住宅については、当初目標を上回る戸数を整備した。下野上地区にも再生賃貸住宅50戸を整備したが、入居開始以降、ほぼ空きがない状態のため、町内の住宅事情や民間事業者の動向を注視し、住宅の需要と供給のバランスを図りながら整備を検討する。 ○医療環境の整備に関しては、利用者から手間が掛かる対面診療より便利と評判は高いが、オンライン診療の導入例が少なく認知度が低いためか実績が伸びなかった。利用普及に継続して努める。 ○商業施設の整備に関しては、R6年度末に大野駅西エリアに7店舗が開業し、全体として目標を上回る店舗数となった。帰還者・移住者が年々増加している中、土日・祝日の営業が少ないため、安定した営業を促進していく。</p>	<p><有識者意見> ○公営住宅は需要に対し一定の役割を果たしている。これからは民間の賃貸や住宅を増やしていく必要がある。 ○クマSUNテラスにて現金が使えない店舗があると利用者が限られるため、利用しやすい環境を整備してほしい。</p>
--	--

(イ) 町内雇用の促進

福島第一原子力発電所の立地町という特徴を活かした、廃炉・ロボット関連の研究機関・企業及び町の課題解決に寄与する企業等を中心に、町内雇用の推進を図るため、企業誘致活動を展開する。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	企業への接触数 (ネットワーク構築) (社/年)	P. 43	30社	9	30	28	33	41	136.7%	A

<評価・今後の見通し>

○窓口来庁先の他、アンケート送付により反響先へも営業。実際に中央産業拠点に応募頂いた。引き続き接点確保する。

<有識者意見>

(ウ) 町民の生活を支える交通手段の確保

帰還困難区域以外の地域においては、町土復興の進展に合わせて、交通流動が発生する。ミニバス・タクシー等の運行計画を調査・策定し、公共的な交通手段を確保する。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	大野駅周辺～大川原地区～富岡駅間の路線確保 (便/日)	P. 43	20便	24	24	34※1	38※2	41	100.0%	A

※1 大野駅～大川原地区20便、大川原地区～富岡駅14便

※2 大野駅～大川原地区22便、大川原地区～富岡駅16便

<評価・今後の見通し>

○利用者へのアンケート及びJR常磐線ダイヤ改定に伴う生活循環バスのダイヤ改正を実施した。今後、利用状況及び町内の帰町状況に伴い、生活循環バスのルート及びダイヤ改正を検討する。

<有識者意見>

基本目標4：「多様な主体」と「社会の中での学び」による次世代育成

(ア) 子どもの成育環境の改善推進

子どもの体力向上の取り組み、大学等のボランティア活用による交流イベントの開催、子どもの遊び場の創出等を通じて、子どもの成育環境の改善を図る

No.	重要業績評価指標（KPI）	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	「顔晴ろう！大熊っ子」の実施 （回/年）	P.51	1回	1	1	1	1	1	100.0%	A
2	「教育と笑いの会」の実施 （回/年）		1回	0	1	0	0	0	0.0%	-

<評価・今後の見通し>

- 「顔晴ろう！大熊っ子」事業は令和5年度から「学び舎ゆめの森スポーツフェスティバル」として、計画通り実施している。
- 「教育と笑いの会」は、帰町前の事業で現在は実施していない。

<有識者意見>

(イ) 教育環境の整備・発展

① きちんと光る特技を持ったおおくまっこの育成

大学、企業等と連携し、将来を担う専門人材・グローバル人材の育成プログラムの開発、先端知識の学習や職業体験を通じた実践力の養成等、町立学校独自の魅力を活かした教育環境を整備する。

No.	重要業績評価指標（KPI）	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	小中学校でのプログラミング学習の実施 （回/年）	P.52	15回	7	7	7	7	7	46.6%	C
2	大学等の協力による出前授業、講義実施 （回/年）		3回	10	10	10	20	20	100.0%	A

<p><評価・今後の見通し> ○プログラミング学習は必修となっている。 ○出前講座等についても、学び舎ゆめの森にて多くの大学、企業と交流し開催している</p>	<p><有識者意見> ○プログラミングを授業に取り入れることは素晴らしいことだと思う。今後は更に追加でネットリテラシーやネットマナーについても授業に取り入れてほしい。SNSなどの使用方法や、コンピュータウイルスの問題なども、子どものうちから触れていただいた方が良いと思う。</p>
---	---

②子どもの夢を間接的に応援する取り組みの継続

グローバルな視野を持ち、夢を見つけるきっかけとして、大熊町海外派遣事業「おおくま希望の翼」を実施し、海外での体験を通して「ふるさと」の再認識や自分の夢を実現し供していく。

No.	重要業績評価指標（KPI）	戦略該当頁	KPIの達成状況						直近年度目標の達成率	計画期間全体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	「おおくま希望の翼」の実施 (回/年)	P.52	1回	0	0	0	1	1	100.0%	A

<p><評価・今後の見通し> ○コロナ世代を考慮し、参加対象を大学生まで拡大。13歳～20歳、15名が団員として参加した。すべてが避難先からの参加であった。 ○事前研修も含めて、避難先で育った児童生徒がふるさとを考える機会になることを含めて総じて有効な事業であるが、事業実施後の反省点として日程が短かった事やプログラムの内容に関して再検討が必要であることが挙げられた。学びの社会貢献の一つとして、令和6年7月に、当該事業の報告会を実施した。事業で得た学びの発表の機会を今後も継続する。</p>	<p><有識者意見> ○実施したということは重要だが、「行って終わり」ではなく、参加者からフィードバックする仕組みも検討した方が良いと思う。</p>
--	---

(ウ) ふるさと大熊の伝承

町立学校における授業、文化祭での民話発表、大人と子どものふれあいイベント等による郷土教育をはじめ、アーカイブ施設等を整備し、ふるさとのおくまの様子や魅力等を次世代に伝承する。

No.	重要業績評価指標 (KPI)	戦略 該当頁	KPIの達成状況						直近年度目 標の達成率	計画期間全 体の評価
			目標	R2	R3	R4	R5	R6		
1	ふるさと創造学の授業実施 中学校 1年生 50時間/年 中学校 2～3年生 70時間/年 小学校 3～6年生 70時間/年	P. 52	-	中学3年生 67時間 小学校 61時間	中学校 1年生 50時間 2～3年生 70時間 小学校 70時間	中学校 1年生 50時間 2～3年生 70時間 小学校 70時間	中学校 1年生 50時間 2～3年生 70時間 小学校 70時間	中学校 1年生 50時間 2～3年生 70時間 小学校 70時間	100.0%	A
2	ふるさと伝承に係るイベント実施数 (回/年)		5回	3	5	5	5	5	100.0%	A

<評価・今後の見通し>
 ○いずれも計画通りの実施となった。地域の方と交流等を行い、大熊の郷土、文化にふれる取り組みを行っている。
 ○授業やスポーツフェスティバル等を通じて、伝統文化を学ぶ機会を作っている。

<有識者意見>